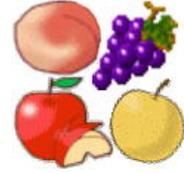


## 平成27年度 果樹情報 第5号

(平成27年5月18日)

福島県農林水産部農業振興課



### 1 気象概況 (5月前半：果樹研究所)

5月前半の平均気温は、1半旬が19.8℃で平年より4.8℃、2半旬が17.2℃で平年より1.5℃、3半旬が19.9℃で平年より4.5℃高く、この期間の降水量は9.0mmで平年の22%でした。

### 2 土壌の水分状況 (5月18日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmが2.8、40cmが2.8、60cmが2.6で乾燥傾向にあります。

### 3 発育状況

#### (1) もも

本年の「あかつき」の硬核期開始は、6月8日頃で平年より3日早いと予測されます。また、収穫開始は平年より1日、収穫盛期は2日早いと予測されます。

表1 ももの発育予測 (5月17日現在)

品 種	硬核開始日			収穫開始日			収穫盛日		
	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差
あかつき	6/8	6/11	3日早い	8/1	8/2	1日早い	8/4	8/6	2日早い

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1981年～2010年の平均。

#### (2) ぶどう

本年の「巨峰」の開花始めは、今後の気温が平年並に推移した場合、5月29日と予測されます。

表2 ぶどうの開花予測日 (5月17日現在)

品 種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
	昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
巨峰 (有核)	5月31日	6月6日	5月29日	5月28日	6月1日

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1988～2010年の平均。

### 東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成27年5月14日発表)

今後の気温の経過は、1週目 (5月16日～5月22日) は高い確率が50%、2週目 (5月23日～5月29日) は高い及び平年並の確率が各々40%、3～4週目 (5月30日～6月12日) は平年並の確率が40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

#### ○ 季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

#### ○ 最高・最低気温分布予想

一辺20kmの正方形のマス目において、そのマス目の中の代表的な気温などを予想しており、翌日朝の最低気温の予想などが表示されます。

URL: [http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/t\\_maxmin.html](http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/t_maxmin.html)

#### 4 栽培上の留意点

##### (1) 凍霜害対策

果樹類の多くは幼果期を迎えていますが、引き続き気象予報に注意し、降霜の恐れがある場合は防霜対策を実施しましょう。なお、ぶどうは展葉期に凍霜害を受けると、花器だけでなく新梢にも障害が発生する場合がありますので、十分注意しましょう。

##### (2) 乾燥対策

今後、降水量が少なく園内の土壌が乾燥するような場合は、以下の対策を講じましょう。

###### ア かん水

10a当たり25～30tを1回のかん水の目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。なお、保水性が劣る砂質土壌等では、1回の量を少なくし、間隔を短くし回数を増やしましょう。

###### イ 草生管理

草生栽培の園では、樹と草との水分競合を防ぐため、草刈りを行いましょ。なお、地際部まで刈ると放射性物質をまき上げる可能性がありますので注意しましょう。

###### ウ マルチ

梅雨期前は、刈り草や稲わらのマルチにより、土壌水分の保持に努めましょう。

##### (3) も も

この時期は新梢や果実の生育が旺盛になりますので、着果管理や土壌の水管理等を徹底し、初期生育を促進しましょう。

###### ア 予備摘果

摘らいや摘花を実施しなかった園やこれらの程度が弱かった園では、必ず予備摘果を実施しましょう。なお、結実状況にバラツキがある場合は、予備摘果は行わず仕上げ摘果から実施しましょう。

###### イ 仕上げ摘果

果実肥大に差がつく満開後40日頃から実施します。なお、本年は、6月8日頃から硬核期が始まると予想されます（果樹研究所）ので、この頃を目安に仕上げ摘果を終了させましょう。

仕上げ摘果で残す果実の量は、最終的に着果させる量の1～2割増とし、樹勢や双胚果、核障害の発生状況等を見ながら加減しましょう。

###### ウ 新梢管理

5月下旬頃から6月中旬頃にかけては、新梢の生育が旺盛な時期となるため、樹勢の強い樹や若木等では樹冠が混みやすくなります。

樹冠内部や主枝、垂主枝の基部、側枝基部の徒長しやすい新梢等、今後、樹冠内を暗くするおそれのある新梢は、早めに摘心や夏季せん定を行いましょ。

なお、樹勢の弱い樹は、これらの管理を行わないか最小限とし、葉面積の確保により樹勢の回復を促しましょ。

##### (4) りんご

落花7～10日後でガク立ちが始まり、実止まりが確認できるようになります。実止まり確認後は速やかに予備摘果を開始し、満開後30日以内に終了するよう心掛けましょ。

また、成熟が遅れ、果実品質も劣る長果枝や貧弱な果そう等の果実は、この時点で全て摘果し、着果負担の軽減を図りましょ。

なお、えき芽果の着生が多い園では早めに摘果を行うことにより、この部位からの枝の発出を促しましょ。

予備摘果と併せて、主枝や骨格枝の背面、冬期せん定時の切り口等から発生している新梢は、手で掻き取れるうちに芽かきを行いましょ。

##### (5) な し

満開後30日を目安に予備摘果を終了させましょ。

また、主枝や垂主枝の背面枝は掻き取り、不定芽新梢が混み合っている部位はこれらを間

引きし、2～3本に整理しましょう。予備枝新梢は、強風による折損の恐れがなくなってから先端の一本を残しましょう。

この時期に土壤が乾燥している場合は、樹勢低下やカルシウムの吸収不良による生理障害の発生が懸念されるため、かん水により土壤水分を十分に確保しましょう。

なお、新梢の伸長が悪く葉色が薄い場合は、早期摘果で着果負担を軽減するとともに、5月中を目安にチッ素成分を含む葉面散布用肥料の散布等で、樹勢の回復を図りましょう。

#### (6) ぶどう

混み合っている部位の新梢や強勢で花振るいのおそれのある新梢、花穂を持たない弱い新梢は芽かきし、新梢が30～40cm程に生育した頃から誘引を行いましょう。

ただし、この時期の「あづましずく」の新梢は、基部から折損しやすいので、無理に誘引せず時期を遅らせて実施しましょう。

この時期から開花期頃にかけては、新梢誘引、摘穂、花穂整形、ジベレリン処理等と生育ステージに合わせた管理作業が続きますので、各々適期を逃さないよう計画的に実施しましょう。

また、土壤の乾燥が続くと、新梢の初期生育が劣り、新梢伸長と花穂発育のバランスが崩れて花振るいや単為結果等を誘発することが心配されるため、必要に応じてかん水を実施し、土壤水分の確保に努めましょう。

#### (7) おうとう

本年は、全般的に結実量が良好で着果量が多い傾向にありますので、一つの花束状短果枝に3～4果程度を目安に早めに摘果を実施しましょう。

また、雨よけ資材による被覆や園内の草刈り、シルバーシートの敷設等の管理作業も計画的に実施しましょう。

### 5 病虫害防除上の留意点

#### (1) 病 害

##### ア ももせん孔細菌病

福島及び伊達地域では、春型枝病斑の発生ほ場割合が平年より高い状況でした（病虫害防除所、平成27年4月24日付け病虫害発生予察情報 注意報第1号）。

昨年は、県内全域において本病が多発したことから、越冬菌密度は高いと考えられ、今後の発生量はさらに増加すると予想されます。

春型枝病斑やこの周囲の発病部は今後の感染を助長しますので、見つけしだいせん除し適切に処分するとともに、5月中～下旬の薬剤散布を確実に実施しましょう。

##### ウ もも灰星病

灰星病の感染による花腐れが原因の枯れ枝は、成熟期において果実への伝染源となるので、見つけしだいせん除し適切に処分しましょう。

##### ウ りんご黒点病

落花直後から感染が始まり、特に落花10日後頃から30日頃に感染が拡大します。この期間に降雨が多い場合は、薬剤散布の間隔が10日以上開かないよう注意しましょう。

##### エ なし黒星病

4月下旬～5月上旬における果そう基部病斑の発生ほ場割合が、平年より高い状況でした（病虫害防除所、平成27年5月8日付け病虫害防除発生予察情報 注意報第2号）。

果そう基部病斑は見つけしだい除去し、適切に処分するとともに、薬剤防除を徹底しましょう。なお、防除に当たっては、5月中は7日間隔での散布を心掛け、散布量は10a当たり250リットル（スピードスプレーヤの場合）の規定量を遵守しましょう。

#### (2) 虫 害

##### ア 主要鱗翅目害虫

主要な鱗翅目害虫の発生時期は平年よりやや早く推移していると推測されます。

各害虫の越冬世代成虫の発生ピークは、モモハモグリガが4月17日、ナシヒメシンクイが

4月27日でした。

イ モモハモグリガ

越冬世代成虫の発生は終息したとみられます。今後の気温が平年並みに推移した場合、第2世代幼虫の防除適期は5月6半旬～6月1半旬頃になると推定されます。今後の気温の推移に留意して防除を行いましょう。

ウ ハマキムシ類

リンゴモンハマキ及びリンゴコカクモンハマキの越冬世代成虫の発生盛期は5月2半旬頃だったと推定されます。

今後の気温が平年並みに推移した場合、これらの第1世代幼虫の防除適期は5月5半旬頃になると推定されます。今後の気温の推移に留意して防除を行いましょう。

なお、複合交信かく乱剤の設置が遅れているほ場では早急に設置しましょう。

エ カイガラムシ類

ウメシロカイガラムシ越冬雌成虫の防除適期は5月5～6半旬頃になると推定されますので、ふ化幼虫の分散に合わせて防除を行いましょう。

なお、クワシロカイガラムシの防除適期は、これより7～10日程度遅くなりますので、時期を間違わないように注意しましょう。

オ カメムシ類

越冬世代の成虫による被害は幼果期から見られることがあります。特に山間部や山沿いの園では、飛来状況をよく観察し、多数の飛来が見られた場合は速やかに防除を行いましょう。

表3 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成27年5月17日現在）

今後の 気温予測	リンゴモンハマキ		モモハモグリガ		ナシヒメシクイ	
	越冬世代 発生盛期	第1世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	5月10日	5月23日	5月21日	5月27日	6月8日	6月17日
平年並み	5月10日	5月24日	5月22日	5月29日	6月13日	6月23日
2℃低い	5月10日	5月26日	5月23日	6月1日	6月20日	7月3日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 リンゴモンハマキ: 3月1日、モモハモグリガ: 4月17日、ナシヒメシクイ: 4月27日

### 病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339  
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧いただけます。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

農業総合センター（本部、果樹研究所、会津地域研究所、農業短期大学校）の生育状況を掲載していますので、参考にしてください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gi-jyutu03.html#tokubetsujyouhou>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧いただけます。

URL: <http://www.new-fukushima.jp/>